

いよいよ、私たちの旅も今日一日を残すのみとなりました。今朝は一番に神殿の丘に登るために糞(塵芥搬出)門から旧市街に入りました。「糞とは米の異なる形と書く、なかなか味わいのある文字である」とガイドは説明しました。神殿の丘の下にエルサレム考古学博物館の遺跡が見えました。



アル・アクサーとロビンソン・アーチ跡

神殿の丘はアラブ人の管轄になっていて、簡単ですが検問を受けて入ります。神殿の南の城壁の上には、銅のドームを持つ 8 世紀初頭に建築されたアル・アクサー・モスク(礼拝堂)が見えます。丘の中央にとりわけ目を引く岩のドームがあります。黄金に輝くドーム、コーランが記された青と白を基調とした花タイルの外観、八角形の壮麗な建物は、7 世紀末に建てられた「岩の記念堂」です。ここにユダヤ教にも、イスラム教にも伝説のある岩が大切に保存されているのです。

目には光り輝く美しい岩のドームが魅力的ですが、宗教性、神聖性に於いてはアル・アクサー・モスクが重要で、規模が大きいとのこと。これらの建物にはイスラム教徒しか入れません。中の様子を知りたいと思い、絵葉書セットを買いましたが、説明は書かれていませんでした。東にはオリーブ山が見えて、静かな見晴らしのいい場所です。見学している最中に、激しい声が聞こえてきました。やがて数名のブルカで顔を覆った女性



岩のドーム



達が、コーランの本を手にして叫びながら、あるグループを追い続ける姿が見えました。ガイドによれば、穏健派のイスラム教徒の観光客に抗議しているとのこと。女性がモスクの付近でデモができるのは、自由さがあるのかとも思いましたが、「動員」されているのだそうです。イスラムは様々な面で閉鎖的であり、相互理解を求めているような気がして残念でした。モロッコ門から出て、神殿の丘の西側の城壁の下に出ました。そこは有名なユダヤ教徒の聖地と言われる「嘆きの壁」でした。壁は下から6段ほどの大きな石がヘロデ時代のものです。その上にも時代ごとに異なる石が重なっています。地下には更に古い時代のものがあるのだそうです。そこに、男女に分かれて祈る場所が設定されています。観光客など、目に入らない様子で祈る人々が集まっていました。男性は、ガイド曰く「ユダヤ教を守る人ゆえ、保護を受けている、政治的にも右派」となる黒い衣服、帽子、髭のい

でたちの人が多いです。イケメンのユダヤ教徒に声をかけて、モデルになってもらい、12年も患っていた女性が触れた、「イエスの服の房」(マタ9:20)と言われる房を見せてもらいました。最近では簡便にズボンのベルト付近から白い房が下がっています。城壁の南西の壁部に目立つ遺跡が見えました。ロビンソン・アーチと名付けられています。最近の調査では、ヘロデ時代に神殿と都の大通りを結ぶ跨線橋として計画し、完成に時間がかかり、完成後 20 年も経ず、ローマに破壊されたということです。岩を閉ざすイスラム教徒、嘆きの壁で祈るユダヤ人の静寂な祈りの場を邪魔している観光客の私は申し訳ないと思いつつ、岩にしても、石の壁にしても固執しすぎるのは残念です。サマリアの井戸辺で女性に言われたイエス様の言葉を思い出します。



あなたたが、この山でもエルサレムでもない所で、父を礼拝する時が来る。…しかし、まことの礼拝をする者たちが、霊と真理をもって父を礼拝する時が来る。今がその時である。なぜなら、父はこのように礼拝する者を求めておられるからだ。(ヨハ 4:21-23)

あなたたが、この山でもエルサレムでもない所で、父を礼拝する時が来る。…しかし、まことの礼拝をする者たちが、霊と真理をもって父を礼拝する時が来る。今がその時である。なぜなら、父はこのように礼拝する者を求めておられるからだ。(ヨハ 4:21-23)

あなたたが、この山でもエルサレムでもない所で、父を礼拝する時が来る。…しかし、まことの礼拝をする者たちが、霊と真理をもって父を礼拝する時が来る。今がその時である。なぜなら、父はこのように礼拝する者を求めておられるからだ。(ヨハ 4:21-23)